

自転車目線で自転車環境整備について考えよう！

## 《Bicycle glance Meeting》

Let's think about the bicycle environmental improvement in a bicycle glance!

(日本自転車環境整備機構/20150918 いしまる案)

**Bike is Good!** 先の大震災でその良さが益々見直され、平成のエコ系自転車ブームはさらに加速し、各地で自転車の利活用が促進しています。しかしその伸びにインフラやマナーが追い付いていないのも事実です。

自転車の走行環境整備は、繰り返されるブームの終盤に語られるのが常で、その典型例がマウンテンバイクの山道走行問題ではないでしょうか？さらにレースを含むサイクリングイベントも然りです。

我々の目指す「Cycling-for-All」は、一般道で交通ルールを順守しながら走る、レースとツーリングの性格を合わせ持った自転車ソフト(ツーリングコンペティション)です。その実現には“自転車市民権の獲得”が前提となります。

自転車にはスポーツ利用と日常利用の二面性があり、警察も自動車的、歩行者的と表現しています。つまり自転車利用者は、それぞれの立場で物事を見る「複眼的思考」の持ち主と言え、それを「自転車目線」としています。しかし実情はスポーツ利用と日常利用に段差があり、自転車市民権獲得には至っていません。



それではと、日本の実情に合った年齢性別車種不問で楽しめるツーリングコンペティションとして「THT26◆自転車さんぽ」を2005年より始めた実験企画で探り当てました。

その結果、スポーツ利用と日常利用の懸け橋として、個人やショップはもちろん、地域興しNPOや都市交通再生の行政など、主催の大小を問わず各地で開催されています。

しかし、それだけでは片手落ちで、山道走行問題や自転車ソフトの標準化、さらに人材育成など、課題は深く広く存在しています。そういったブームやイベントだけでは解決できない走行環境問題を扱うには、自転車目線を共有する関係者のネットワークが必要条件と考え、“バイシクルグランスマーティング”を提案します！

みんなで「自転車ソフトの標準化」や「サイクリストライセンス」を考える“バイシクルグランスマーティング”は、「レース+ツーリング+ワークショップ」の総合型イベントを各地で開催しながら、ユーザー、ショップ、地域が三位一体となったヨーロッパ型サイクリングクラブを各地に育てるものです！

### バイシクルグランスマーティングの提案

「レース+ツーリング+ワークショップ」の総合型イベントの可能性をシマノバイカーズフェスティバルを手本に探る。

#### 自転車ソフトの標準化

シマノバイカーズフェスティバルやB.E.I.の企画としてMTBレースやツーリングメニューの実証実験イベントを行う。  
※既存のMTBイベントにツーリングメニューの導入を呼びかける！

#### ショップ&クラブの掘り出し

自転車協会のSBAAプラスや、地域の有志を核に地域密着型サイクリングクラブの可能性を探る。  
※自転車さんぽのトーナメント企画で全国の協力者を募る！

### 日本版サイクリングフォーオール

2020年の自転車のシマノバイカーズフェスティバルを絡める形で、日本各地で実施可能なバイシクルジャンボリーの実施を目指す。  
※2年跨ぎ企画として、2019年の春需に合わせて、地方大会、ブロック大会、そして全国大会の告知を行う！

バイシクルジャンボリーの運営は、地域密着型サイクリングクラブ(LCTCC)のネットワークが持ち回りで主管。